みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第５０号
記念特大号
発行日
平成２４年　12 月１日

PV会員の絆として12年！
おかげさまで創刊 50号

◇　目　次　◇

P2～P8　「みせん」50 号への歩み
50 号記念投稿、アンケート集計
主要行事の実施状況
P9　宮島二流記（13）平田 広三郎
P10 入浜定点観測⑥⑦及び維持作業
P11　樹木名板点検、保守
紅葉谷公園内清掃
エコ・イノベーションメッセ
P12　山陰海岸研修交流会
P13　茗渓会顕彰受賞、取材者来訪、
環境フェスタ出展、編集後記

修復された仁王門

弥山・仁王門が　平成 11 年の台風で倒壊して以来 13 年ぶりに再建され、10/28 に落慶法要が執り行われた。

13 年前の丁度その頃　「宮島地区パークボランティアの会」は発足に向け、会員の研修を始めていた。以降 PV の会は観察会や登山道の清掃活動などで幾度となく門の無い「仁王門跡」を通ったが、この場所は我らが活動拠点「弥山」の象徴でもあった。

この期間　PV の会は充実した活動を続け、会報「みせん」は５０号を迎えることが出来ました。仁王門再建と共に、非常に意義深く、喜ばしいことです。

（　写真・文　）　岩崎 義一

「みせん」50号への歩み

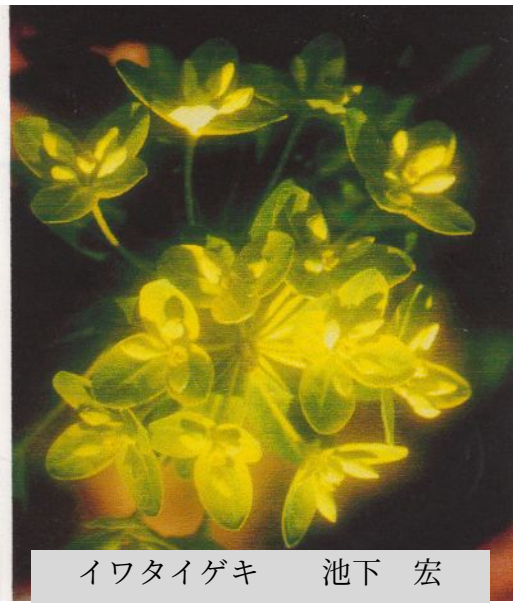
平成 12 年 PV の会設立と同時に創刊した会報「みせん」が、50 号を発行するまでになりました。その間、会員の皆さんには積極的に投稿して貰うなど絶大なるご協力をいただき、今日まで継続することが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

「みせん」50 号への歩みとして、今までに発行したものの中から任意に選んだ何点かの掲載内容と表紙写真を集め、記念投稿と合わせて特集としました。

みせん 3 号　平成 13 年 3 月

・環境庁が環境省へ昇格
・深入山で自然体験　JPR 第 3 回 10/28,29
・砲台跡を探訪　PV 研修会　11/25
・弥山サル・シカ生態観察　JPR　12/9
・自然観察会と登山道清掃　　1/13
・PV 会員紹介　その 3
・PV の会役員決まる　11/25 臨時総会
　会長　横山 忠司　副会長　中川　正
　足立　清　　会計　末原 義秋

みせん 7 号　平成 14 年 3 月



イワタイゲキ　　池下　宏

・自然解説指導者研修会参加記　松尾 健司
・弥山自然観察会　　12/15
・公募観察会　弥山史跡巡り　1/27
・甦る歴史的遺産砲台跡の清掃　2/2
　※この時から毎年鷹ノ巣砲台跡の清掃、整備を続けています
・包ケ浦体験学習「広島のカキ」　1/27
・投稿　鳥類標識調査について　近藤 芳子

50 号記念投稿

「みせん」50 号に想う　　村上 光春

ほんの昨日のようにも思えますが、創刊から 12 年余。50 号、すばらしいですね。

創刊号から最新号までを並べてみると、至るところに会報の「進化」を感じます。

これも会報の定時発行と質の向上に熱意を注がれた広報部会長をはじめ、記事の収集と編集・校正に汗された編集委員、そして行事ごとに活動記録や感想記事を寄稿いただいた会員各位のご協力のたまものだと思います。

創刊号の前の準備号に、設立準備代表者会議の写真があります。古事記の「国生み」を彷彿させる、「当会の方向付け」を協議している様子が窺えます。・・皆さん若いですね・・

18 号には、台風 18 号倒木始末の記事が 30 号には、入浜池の汽水復活浚渫作業の様子が,49 号には、ミヤジマトンボとラムサール条約重要湿地の話が、掲載されています。

そして別冊の町石特集号、入浜調査増刊号、10 周年行事特集号など、会報を眺めていると、当会の活動の歩みとその折々の時勢を偲ぶことができます。

また、新会員加入時に掲載される新入会員の自己紹介（自己寸評）は、新旧会員の相互理解とコミュニケーションを図るうえで大変役立っています。ぜひ継続してください。

会報の編集と発行はそれなりの労力が要りますが、会の活動記録と会員の絆という大切な役割を担っています。これからも全会員で協力しながら、また楽しみながら、次の 60 号、70 号・・へ向かって行きましょう。

みせん 10 号　平成 14 年 12 月

・3 地区 PV 交流研修会　於大久野島
　倉敷、五色台、宮島　9/21,22
・JPR　第 2 回　大久野島　8/31,9/1
・JPR　第 3 回　深入山麓　10/5,6
※JPR 支援活動は平成 12 年から始まり
　平成 20 年まで続きました。
投稿　オーストリア・アルプスの山歩き
　池下　宏

12 号表紙　弥山のヤマグルマ　新川　博

みせん 14 号　平成 15 年 12 月

・瀬戸内海 3 地区 PV 交流会　9/27,28
　交流会　宮島“杜の宿”翌日　弥山登山
・JPR 支援活動
　海辺の自然に触れる　大久野島　8/30,31
　森の生き物と接して　戸河内 10/25,26
・公募観察会　史跡　10/19
・樹木名板取り付け 109 種 567 枚　10/7
　※以後毎年維持補修を続けています
・観察部会「石造物調査」　9/23
・JICA 研修生が宮島でフィールドワーク
　PV の会も協力　10/30

みせん 15 号　平成 16 年 3 月

・部会打合せと研修会　12/6
　「厳島学講座」受講　文化庁　本中氏
・初冬の紅葉谷　公募観察会　11/24
・弥山登山道の補修（大聖院道）1/24
・岩船岳登山　コバンモチ保護網の点検
　2/11,2/21
　※以後 2 年毎に岩船岳登山を実施している
・多宝塔コースでの自然観察会　2/8
投稿　宮島のサルとシカ　小川 加代

50 号記念投稿

12 年間居ります！　平田 広三郎

そうです、平成 12 年 4 月の会発足時の入会です。まだその頃は勤め人でしたので、あまり熱心に活動した記憶はありません。

それでも当初はミニ土木作業が多かったようです。なかでも求聞持堂広場から大日堂前の階段を 30 kgぐらいの石積みの石を 2～3 回往復して担ぎ上げたのが思い出されます。まだ環境省発足時で予算が少なく、工事費を節約するための手伝いだったようです。

老男女の熱心な姿を見て、請負業者から 5 千円の謝礼が会にあったと後ほど聞きました。

また大聖院コースの土のう 500 袋を積んだ土留め作業や鷹ノ巣高砲台の整備は当時の自然保護官も一緒になってのきつい作業でした。

勤めも終わり、会の行事への参加も増えてきましたが、私の中では「ばくち尾」の言葉がひっかかり、語源を調べてみようと、宮島関連の本を古書店・古本市を訪ね収集しました。これが「みせん」に連載中の「宮島二流記」の元となったのです。

宮島の古い地名や伝説について、宗教民俗学（五来 重提唱）を重ねると比較的よく説明がつき、宮島が「遍路（辺路）の島」であったことが分かります。もちろん難しすぎるとの批判があることも承知していますが、何回も読み直していただくことやインターネット・辞書で言葉の意味を探っていただくと、宮島の歴史への興味が湧いてくると思います。

まだ 7～8 回分は残っていますが、それの終わる頃が私の会を去る時だと思っています。

みせん 17 号　平成 16 年 9 月

・瀬戸内海国立公園指定 70 周年記念式典
　に参加して　松尾 健司
・弥山登山道の町石　過去と現在
　2 年がかりで実地調査　岩崎 義一
・包ケ浦で JPR 支援　海辺で環境学習
　7/10,11
・おおの自然観察の森 観察会　6/20

・樹木名板パトロール　　7/17
・海岸植物群落調査　宮島地区 12 箇所
　　6/29

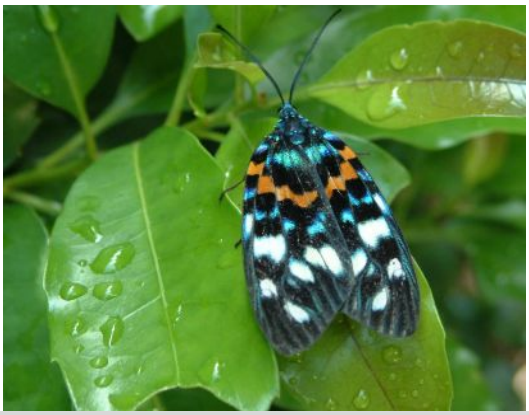
表紙　ハンゲショウ　　中道　勉

みせん 18 号　平成 16 年 12 月

・台風宮島に甚大な被害！
・PV 包ケ浦などで樹木、折枝の片付け
　　9/20 大元、包ケ浦
　　9/23 大聖院登山道
・投稿　十和田・八幡平国立公園
　　感動の旅　横山 忠司

みせん 21 号　平成 17 年 9 月

・特集　PV5 年間の歩み
　楽しく自然に親しむ　　観察部会活動
　美しい自然を大切に　環境整備部会活動
・絵の島で自然体験　　JPR　7/9,10
・盛夏の鷹ノ巣観察会　　7/24
・自然公園クリーンデー　　8/7
　※8 月第 1 日曜日、現在も続いています
・岩国城山観察会　　6/17
・海岸植物調査　宮島近辺 18 箇所の調査完了



25 号表紙　サツマニシキ　前田　勲

みせん 22 号　平成 17 年 12 月

・台風 14 号　宮島に土石流災害
　PV で復旧支援活動　9/11 9/15 9/17
・台風 14 号の土石流　貴重な町石、石仏が流出、埋没　　岩崎 義一
・公募観察会　宮島の歴史と文化　10/16
・弥山でハチクマ渡りの観察会　　9/23
・おおの自然観察の森
　　ベニマンサク観賞会　10/15
・宮島のシカを守るには・・JPR　9/3,4
・私の趣味　幽谷美人との出会い
　　西　喜三

50 号記念投稿

心の宝石箱　　野呂田 恵子

多彩な記事が載っている「みせん」が届くのを毎回楽しみにしていますが、50 号となると全部を合わせると結構な厚さになり、50 号の重みを感じます。

「みせん」で宮島の歴史、植物、鳥、動物のことなどを学び、宮島の懐の深さが分かるにつけ、何も知らずに PV に入会した自分の向こう見ずな行為が、とても幸運だった事に気づきました。

創刊当時の「みせん」は宮島のことだけでなく海外旅行記や趣味なども掲載され、私も投稿を依頼されましたが、お断りしました。

初めての投稿は入会して 5 年位経った頃で、その時は僅かな記事しか書けませんでしたが、今では原稿が長すぎると苦情が出ています。

以前引き出しの奥から新聞の切抜きが出てきました。その中に「宮島」の鷹ノ巣高砲台～入浜～大砂利をたどった記事があり、昭和 61 年前後の記事でした。今年 TV で加藤 千洋氏が、私の持っている切抜きと同じものを手にされて「以前私が書いたものです」と言われたとき、千洋氏ファンである私にとって、この切抜きは特別なものになりました。

「みせん」にも宝物のような記事がたくさん詰まっています。心の宝石箱のような「みせん」をこれからも楽しみにしています。

50 号記念投稿

環境省 広島事務所
自然保護官補佐（AR） 大高下 理恵

「みせん 50 号」発行おめでとうございます！今や“宮島の環境団体といえば宮島ＰＶ”とその活動が周知されてきたのも、「みせん」をはじめ、新聞やＴＶを通して、皆さんが日頃の活動を伝えてこられた結果だと思います。

何事もスタートするには一歩を踏み出す勇気が必要ですが、始めたことを続けていくことは容易なことではありません。過去の「みせん」を振り返ると、12 年もの間、皆さんが変わらない信念を持って活動を続け、宮島の自然保護にご尽力されてこられたことがうかがえます。

今後も皆さんが宮島との関わりを楽しみながら、またご自身の歩幅にあったＰＶ活動を続けていただけるよう、微力ながらサポートさせていただきたいと思います。

みせん 23 号　平成 18 年 3 月

・鷹ノ巣山観察会大盛況！
　初の高砲台跡探訪　一般参加者 79 名
・PV の会　会旗制定

宮島地区
環境省 パークボランティアの会
瀬戸内海国立公園
SINCE 1934

みせん 26 号　平成 18 年 12 月

・宮島の自然に親しむ　JPR　9 月～10 月
・第 2 回　入浜自然調査　11/5
　※入浜の調査、定点観測は現在も続いています。
・海岸清掃大作戦　腰細浦・入浜　10/7
　広島県産業廃棄物協会に協力　7 団体
　160 人のボランティア（PV16 人）参加
・弥山でハチクマ渡りの観察会　9/23
・公募観察会　鷹ノ巣の自然と歴史　10/29
・紅葉谷公園の補修、清掃　10/14
　※秋の観光シーズンを前に毎年実施。

みせん 31 号　平成 20 年 3 月

表紙　千鳥別尺のヤマザクラ
六重部 篤志

・PV 年末の集い・研修会　12/1
・地図に親しもう　古川 義文
・初めての経小屋山観察会　1/19
・弥山登山道の清掃　12/8
　※新年を前に毎年実施しています。
・投稿　中国に魅せられて　佐伯 宣雄

みせん 34 号　平成 20 年 12 月

表紙　復旧工事が完了した 1 号堰堤
末原　義秋

・磯の生物観察会　　8/30
・第 1 回入浜探検隊　　10/4
　汽水池の水質と水性生物
・景観一変　弥山登山道（大聖院）開通
　災害復旧 3 年ぶり登山道の清掃　9/24
・会員親睦旅行　四国カルスト、高知
　　9/27,28
・交流　三瓶自然館 VT　JICA 研修生
・ミヤジマトンボ環境整備　　11/12

みせん 37 号　　平成 21 年 9 月

・RCC エコロジー大賞を受賞
　PV10 年に亘る多彩な活動が評価される
・宮島一周踏破記　　岩崎 義一
・厳島神社海浜清掃　　8/5
　管絃祭を前に神社周りの海浜清掃を実施
　※以後毎年管絃祭の前に実施しています
・連載　宮島二流記（２）　平田 広三郎
　※連載は 36 号から始まり現在も継続
・ミヤジマトンボ現地研修会　　7/3

みせん 38 号　　平成 21 年 12 月

表紙　ミヤジマトンボ　　松田　賢

・インタープリテーション研修会　8/22
　　講師　古瀬 浩史さん
・秋吉台 PV と交流　会員親睦旅行　9/12,13
・瀬戸内海水環境調査　　10/17
・紅葉谷公園の清掃　　10/24
　　てんぐ巣病のサクラ枝切除
・ハチクマの渡り観察 佐伯運動公園 9/18
・三高砲台山観察会　　10/31

みせん 40 号　　平成 22 年 6 月

PV の会設立 10 周年　記念特集号
・宮島地区 PV の会 10 年の歩み
・PV が選んだ新宮島八景
　10 周年記念行事として 22 年度の総会出席者の投票で選定しました。

○入浜海岸と汽水池　○鷹ノ巣高砲台跡
○江の浦の山桜　　○厳島海峡展望台
○厳島合戦と博打尾　○登山道の幻の滝
○岩船岳と高野槙　　○蓬莱岩と徐福伝説

50 号記念投稿

甦る明治の遺産　　末原 義秋

明治時代に作られた鷹ノ巣砲台（高・低）と当会との関わりは、平成 12 年 11 月の自主研修が始まりです。構築後放置され荒れ果てて埋もれている砲台跡を甦らせようと整備作業を行うことになり、平成 14 年２月から延べ 12 回行っています。

砲台の場所は国有林（林野庁所管）にあるため、整備作業時には広島森林管理署の入林許可書が必要です。なお、自然公園法、文化財保護法については、維持管理行為として許可の対象となっていません。

最初の頃の整備作業は、砲台の礎石周り及び観測所周辺にシダや雑木が生い茂り、枯木や木が倒れていたのでチェンソーや草刈機での伐採や取除き作業、観測所への連絡通路の階段の堆積土砂の除去作業、その土砂を使って決壊した箇所を土のうで築造するなど人海戦術の困難な作業でした。また、新しく発見された観測所からの連隊長指令所跡への通路整備とその周囲のシダ狩りや雑木除去作業、厠（トイレ跡）の整備を行いました。

近年は、砲台跡や観測所及びその周辺の施設の整備、連絡通路の階段の堆積土砂の除去及び清掃作業等を行っています。

築後 100 年を超えるこの施設は、近代化遺産にも匹敵するものではないかと思っています。今まで整備作業にご協力をいただき有難うございました。今後も整備作業を続けて行きたいと思いますので皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

みせん 43 号　　平成 23 年 3 月

・PV の会臨時総会・役員改選　　12/4
・宮島エコツアー試行　　12/22
　大聖院登山道～弥山～紅葉谷
・極寒岩国で野鳥観察会　　1/29
・くじゅう PV と交流　会員研修親睦旅行
　2/5,6
・公募観察会　弥山山麓親子観察会　11/20

みせん 45 号　　平成 23 年 9 月

表紙　大山の二段滝　末原 義秋

※昨年の台風 12 号で被害を受け、現在滝の景観が変わっています。

・公募観察会 奥の院コース　　6/4
・極楽寺山 きのこ調査　　7/9
・大山へ研修旅行　　6/11,12
・「みせん」40 号（10 周年記念）
　国立国会図書館に収蔵される

50 号記念投稿

春～夏の活動での　雑詠十句
黒木 隆信

浅蜊掘る身支度で来しボランティア
立春の潮路駆けゆく高校生
水温む入浜池の清掃日
堆(うずたか)く積まれし塵(ごみ)や春の磯
木下闇子どもと鹿の紙芝居
鹿(か)の子描(か)く子らの瞳の一途なる
神木の高きに咲けり石斛蘭(せっこくらん)
老鶯(ろうおう)や遊女が敷きし石畳
ハマゴウの花のかをりや日焼浜
氷店開く初日の客となり

主要行事の実施状況（定例行事）

年　次	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
JPR支援活動													
公募観察会													
鷹ノ巣砲台跡清掃													
樹木名板取り付け、管理													
岩船岳登頂（隔年）													
自然公園クリーンディ													
ハチクマの渡り観察（弥山･佐伯公園）													
入浜の調査、観測、整備													
包ケ浦海岸清掃（7月）													
秋の紅葉谷公園清掃、整備													
年末の登山道清掃													
神社周りの清掃（管絃祭前）													
岩国の野鳥観察会													

「みせん」に関する アンケート集計結果

先日実施しました「みせん」に関するアンケートの集計結果です

配布枚数 55 回答 47　回収率 85%

1、毎号どの程度読んでいますか

①殆ど読む	37
②興味のある記事だけ	10

2、年 4 回の発行ですが

①現状で良い	43
②もっと増やす	1
③減らす	2

3、記事（特に活動内容）について

①現状でよい	38
②もっと簡単に	6

4、特に興味を持って読む記事（多い順）

環境整備部会の活動	35
観察部会の活動	34
会員投稿記事	28
表紙写真とその説明	23
事務局連絡（行事参加者一覧）	22
総会、部会関係	21
研修会関係	19
環境省関連情報	18
新入会者自己紹介	18

5、投稿または記事を書きますか

①積極的に書く	3
②依頼されれば書く	29
③書くつもりはない	12

6、環境省の HP（メール会員のみ）

①毎号開いて見る	11
②たまに開く	19
③全く見ない	8

7、今後掲載して欲しい記事

・宮島の年中行事
・日常生活の体験談や紀行文など
・宮島の伝統行祭事
・宮島の動植物の紹介（写真提供、投稿）
・宮島の活動での小さな発見、体験談
・もっと集合写真を掲載
・公募観察会での参加者の感想文
・宮島で活動している他団体の動向
・全国の PV 情報、国立公園、ラムサール情報、全国の湿地情報他

8、広報部会への要望

9、会の運営に対する要望、注文

多くの皆さんから貴重な提言、注文、苦情をいただきました。それぞれ今後の「みせん」発行、PV の会の運営に生かすべく努力します。有難うございました。

50 号記念投稿

「みせん」創刊の頃　　足立　清

平成 12 年 PV の会発足にあたり、杉本自然保護官が会報の発行を提案されたのが「みせん」の始まりです。会報の名前は会員の投票で一番多かったものです。

創刊当時の広報部会員、素人集団が手探りの状態で始めました、それぞれ原稿を分担してワープロやエクセルに打ち込み広島の自然保護官事務所で編集し、プリントしたアナログ写真を貼り付けていました。

ウィンドウズ 97 ワードで編集するようになってからは、ずいぶん作業能率が上がってきましたが、XP、ビスタ、セブンとこの間 IT は目覚しく進化しました。カメラもデジタルに変わり、最初は画素数 100 万以下でしたが今では 1800 万にもなっています。

当初は全会員にプリントして郵送していましたが、メール会員が増えるに従い、メール送信が主になり、今では 8 割がメールです。

20 号からは環境省の HP に掲載しておりますが、平成 22 年 6 月発行の 40 号（設立 10 周年記念）が　国立国会図書館に収蔵されたことは画期的で大変名誉なことです。

先日アンケートをとりましたら、殆どの人が、毎号楽しみにしている、このまま発行を続けて欲しいとのことでした。今後も会員の皆さんの絶大なるご協力をお願いします。

宮島二流記　（その 13）

平田　広三郎

Q13：「神主・佐伯景弘の生き様はどのようなものだったのでしようか？」

衰微していた厳島神社の興隆には欠かせなかった、歴史上の記録に残る人物です。

A 13：「波乱万丈の生涯だったようです。」

佐伯景弘の足跡を追う場合、厳島神社を軸にした平清盛との関わりや平家一門の盛衰を抜きにしては語れないようです。

清盛は久安二年（1146）29 歳、安芸守に就任し、保元元年（1156）まで約 10 年勤めますが、安芸国に赴任したかどうかはわかりません。記録上で清盛の厳島社参が知れるのは、永歴元年（1160）43 歳の時、藤原（中山）忠親の日記「山槐記」に、「清盛卿、下向安芸伊津久島。之年来之宿願云々」とあります。平治元年（1159）の「平治ノ乱」前後の政界混乱のため志が果たせなかったようですが、年来の意味からいって、数年前には来ていたことを匂わせています。

景弘の初出は、応保二年（1162）正月の除目（じもく：朝廷の人事発令）を記した「山槐記」に、「掃部充　平景弘」とあります。儀式の会場設営をする係ですが、地方豪族の出自とはいえ、一地方社の神主の彼に正七位相当の官位が付与され、「平姓」も許されています。この時清盛 45 歳、彼の引きがあってのこと、ここに景弘と清盛の関係が見て取れます。中央政府に足場を得た景弘は、京と厳島の間を繁々と往来します。

景弘は仁安二年（1167）一月、清盛 50 歳内大臣の時に民部大丞（正六位下）に昇進し、七月には清盛が勅使として伊勢神宮に下向した時、神事に明るい景弘が供した功により貴族となる従五位下、以降「佐伯民部大夫」と呼ばれるようになります。

仁安三年（1168）十一月「安芸国伊津岐島社神主佐伯景弘解状（げじょう：申請書）」を朝廷に提出し、神社の再建を訴えています。治承二年（1178）安徳天皇の誕生時に、平重盛による神馬の奉献先に「伊津岐嶋社・在京ノ神主（景弘のこと）」と「山槐記」にあり、京において人となりが知られていたことが分かります。治承三年（1179）従五位上に昇進。治承四年（1180）三月、高倉上皇厳島御幸の際、従四位下に昇進（「平家物語」では従五位上）し、民部大夫の官職を返上し、以降「散位（さんに：官位だけあって官職のないこと）」を名乗ります。

治承五年（1181）閏二月、庇護者である清盛が没しますが、寿永二年（1183）三月、夢と思える安芸守（国司）となっています。

同じ寿永二年（1183）七月、源氏の蜂起や宗門の反旗に、切羽詰った宗盛は安徳天皇（六歳）を奉じ、三種の神器を携え、京都を発し西海に落ちます。八月、景弘は半年で安芸守を辞し、厳島へ帰ったようです。

平家は、寿永三年（1184）二月、摂津国福原および須磨の一ノ谷合戦に敗れ、讃岐国屋島に逃げ、元歴二年（1185）二月十九日屋島合戦にも敗北し、讃岐国塩飽の海上に漂いますが、三月十六日源氏に襲撃され、安芸国厳島へと逃げます。頼みの綱は景弘ただ一人、景弘や神官らが大鳥居の沖合にて平家の軍船に乗り込み西下し、三月二十四日長門国壇ノ浦の合戦で平家は滅びます。

平家滅亡後の景弘の変わり身の早さは実に鮮やかです。源氏の大将義経は「三種の神器は絶対に確保せよ」との命を受け、神璽・神鏡は確保したが、宝剣の行方が分からない。その時御座船に乗っていた老景弘は「我こそ宝剣の落ちた場所を知るものだ」と名乗りを上げ、命を助けられます。

文治二年（1186）景弘は「宝剣求使」に任命され、文治三年（1187）七月院宣により勅使となり、壇ノ浦の海中捜査のため下向しますが、海中深く探しても宝剣は見つからず、やがて噂もなくなっていきます。

景弘には文治五年（1189）十月の健在が確認される文書がありますが、まもなく没したようです。寛延三年（1750）の文書に「病死シタ」とあるのが最後の記録です。

生年・没年とも記録はありません。

次回 Q14 は「蓬莱（岩）のいわれとはどのようなものでしょうか？」です。

＊参考文献

・「平家納経の研究」小松茂美　講談社　1976

入浜観測⑥と維持作業

公募観察会の下見も

日　時　９月 23 日（日） 9:00～13:00
参加者　岩崎　小方（嗣）小川　川崎　黒木
　　小林（勗）坂本　佐藤（佐）末原　中道
　　野呂田　平田（広）檜和田　松田　宮本
　　村上　山崎　横路　六重部　大高下ＡＲ

今回は９月 30 日に行われる公募観察会の下見と入浜定点観測会の二つの行事を兼ねて実施された。下見の参加者は包ケ浦公園より出発しそれぞれの特徴のある樹木を観察し又、危険な箇所がないかを確認しながら入浜まで道路を歩く。所要時間約２時間、ほぼ予定通りでした。

９月 30 日（日）の公募観察会は雨天中止となりました。

○環境整備

水路は水が流れていないので点検のみ、この間の台風の影響でゴミがかなり打ち上げられていたのでその回収を行った。

○入浜定点観察

{水質調査}

Ａ地点では塩分濃度 1.3 とかなり高かった。潮水がかなり流入していることを示している。

{植物調査}

いつもの通り「蕾、花、実」を確認する。

{昆虫調査}

アカトンボが帰ってきているかと思ったがあまりアカトンボはいなかった。リスアカネ、タイリクアカネぐらいで数も少なかった。アカトンボが少ないのは気温が高い影響だろうとの事。夜の気温が 20℃を下回る日が続くと高い所から低い場所に帰ってくるという研究結果があるそうです。15℃になると全部低い場所に帰ると言われている。

確認できたトンボはギンヤンマ、オオシオカラトンボ、スジイトトンボ（県の準絶滅危惧種）アオモンイトトンボ

クモの巣にひっかかっていたのは比較的渓流に生息しているミルヤンマでした。

池の中はメダカがたくさん泳いでいた。

この前の大潮の時に入ったのかボラやその他海の魚が無数に確認された。

（オオゴキブリを発見）

今まで元宇品でしか見たことがなかったオオゴキブリ（↓）が発見された。普段は朽木や古い切り株に生息しそれらを主に食物としているとの事。このゴキブリは家に入ってこない。野外が生存領域らしい。あの不快なゴキブリとはかなり生態が違うとの事。いつも新しい発見がある入浜定点観測でした。

（　小林　勗　）

９月の入浜水路

入浜観測⑦ 維持管理作業

日　時　10 月 13 日（土）9:00～12:00
天　候　曇りのち晴れ
参加者　小川　奥田　川崎　北野　小林ペア
　　佐伯　末原　富田　中道　平田（広）
　　松田　宮本　柳瀬　山崎　横路　六重部

末原さんと平田さんは池の水位の見直しで測量を行う。

○維持管理作業

海辺と池の周囲のゴミ拾いを行う。毎月行うがかなりのゴミの回収

○定点観測

「植物」六重部さん

池の周りについては特にないが開拓地の方に植えられたヤシ科の植物の実、カラタチの実等秋になって花もなく木の実ばかり目につくこの頃です。

「水質」小川さん

奥の方は水も無く流水も少ない。塩分濃度は山から水が少し流れている所は0.46%全体では2.0%とかなり高かった。CODは10～13ppm。海からのゴミと砂が湿地方向に流入しているのが目立つ。

「昆虫」松田さん

赤トンボの仲間はアキアカネ、リスアカネ、タイリクアカネ、ナツアカネの4種類とノシメトンボが確認された。ヤゴは見つからなかった。砂浜にはヤマトマダラバッタ（広島県準絶滅危惧種）。チョウはウラギンシジミ、キチョウ、モンシロチョウ、蛾はサツマニシキ。池の中はスジエビ、チチブ、メダカが確認された。

今日はヒヨドリが群がって飛んでいるのを観察することができた（何十羽）。この時期には宮島以外でもヒヨドリの渡りがあちらこちらで観察されている。いつも見る存在だからあまり意識していなかったのですがヒヨドリが群がって渡りをするとは知らなかった。

（ 小林 昺 ）

樹木名板点検、保守

日 時 11月3日（祝）9:00～12:00

参加者 岩崎 大西 北野 小林ペア 佐伯
佐藤（庸）渋谷 末原 田中 兎谷
富田 中道 平田（広）檜和田 舛田
村上 柳瀬 山崎 六重部
大高下AR

例年通り①うぐいす道～紅葉谷②大元公園～紅葉谷の2班に分かれて点検保守を実施、今回の補充は15枚でした。

紅葉谷公園内清掃

宮島さくら・もみじの会と共同

日時 10月27日（土）9:00～14:00

参加者 足立 岩崎 大西 恩田 釜谷
川崎 黒木 五石 小林（昺）佐伯
佐藤（庸）末原 田中 兎谷 中道
平田（広）平野 檜和田 舛田 宮本
三次 柳瀬 山崎 吉崎
柴原 自然保護官

紅葉シーズンを前に「宮島さくら・もみじの会」との合同作業で紅葉谷公園と谷ヶ原公園の清掃・補修作業を実施しました。

枯れ枝切断作業

当会は紅葉谷公園の園路清掃、側溝の土砂かき揚げ作業。樹木の枯木除去を行い、宮島さくら・もみじの会は谷ヶ原公園の樹木の枯木、罹病枝の切除作業を行いました。

（ 末原 義秋 ）

エコ・イノベーションメッセ

2012 in ひろしま

開催日 11月22日（木）23日（祝）

会 場 広島産業会館 西展示館

昨年に続き、中四国唯一の環境総合展エコ・イノベーションメッセ2012ひろしまが開かれました。

今年も主催者の要請に応じ、ＲＣＣエコロジーファンドブースに宮島や当会活動のパネル・写真、会報「みせん」等の冊子を展示し、当会の活動状況を紹介しました。

今年7月、宮島海岸がラムサール条約に登録されたこともあって、宮島の手つかずの自然やミヤジマトンボへの関心も高まり、当ブースへの来場者は昨年を大きく上回りました。メッセ全体の来場者数は約7,600名でした。搬入から来場者への説明、案内、撤収まで延べ20名の会員に協力していただきました。

（ 村上 光春 ）

研修交流会
山陰海岸ジオパーク

（参加者）奥田　小林（み）坂本　島　末原
中道　野呂田　舛田　村上

今年の研修交流会は､11月10日～11日　鳥取県の「山陰海岸ジオパーク」です。ジオパークとは科学的に貴重または美しい地質遺産を含む自然公園のことで、ここも 2010 年 10 月ユネスコの“ 世界ジオパーク ”にも認定されました。日本では 5 箇所のみです。

朝 7 時 30 分宮島口を出発し､お昼に鳥取砂丘に到着、自然公園財団の音田所長の案内で砂丘探検に出発です。

今日は北東の風 7.2m絶好の風紋日和です。ハマニガナなどの砂丘植物の生き残りと勢力を広げる工夫や細い枯れ草で穴をつついて出てきたイソコモリグモの観察をしながら馬の背を進んでいると虹が出てきてどんどん私たちに近づきました。雨が降りだしましたが､ここで立ち止まって下を見るよう言われ見てみると、47mの急斜面の上に私達は立っていました。超急斜面ですが砂なので足踏みするだけでススーと降れるとか。ハマスズの鳴き声を聞きながら、約５万５千年前の大山から噴出した軽石や火山灰、巨大なすりばち、追後スリバチ、キツネの住む緑の小山などを案内していたき、ノリに乗りました。

砂丘の風紋

2 時間の散策を終え「鳥取砂丘ジオパークセンター」へ、神近さん（まきじー）に風紋装置による風の芸術である風紋や砂丘特有の凹地地形について実験で見せてもらいました。

このあとらっきょうの花畑を見て、約 1200 年の歴史のある山陰最古の湯「いわい温泉」で宿泊。食事後には「夢千代日記」で有名な「湯村温泉」にも足を運びました。

2 日目は朝から雨の中、浦富海岸に向かいました。今日は「いわみガイドクラブ」の福原さんと環境省浦富の山崎自然保護官の案内です。まず離水海食洞の海賊穴を見て自然歩道を歩きます。海抜 800～1,000mに生育するミズナラがここでは 0m地点から見られます。リュウノウギクの変種ワカサギク､青紫色のハマベノギク、黄色のツワブキなど海岸性植物の特徴、絵描き虫のツワブキハモグリバエなど 30 年も植物を観察されていただけに福原さんの話は皆引きつけられます。今回１番のビューポイント「千貫松島」、高さ 70mにも達する海食崖「おしろい断崖」を見ながら網代展望台まで登り、海上の庭園ともいわれる「観音浦」を眺めて城原へ、途中　水尻洞門や不思議な形の柱状節理､「一っ続きの岬→いくつかの洞門→離れ岩」と進んでいく様子がよくわかる菜種五島などを見ました。この辺りは国立公園の中でも海の中まできれいな「海域公園地区」に指定されていますが、今日は雨に濡れて美しく光る岩肌に荒々しくぶつかる波しぶきがとても印象的でした。コウモリ穴(離水海食洞)のコウモリにも感激。

波しぶきに洗われる浦富海岸

「山陰海岸ジオパーク」を見学し、最後は「浦富の宮島」へ、白い波しぶきを立てる暗い海の向こうにある小さな小島に赤い鳥居が建っているここの宮島もすてきでした。

帰りは白兎海岸や山頂に雪を冠っている大山の紅葉を見ながら帰りました。帰りのバスの中では今回はもちろん例年現地で受け入れて下さる方々の豊富な知識と経験談に有難く感謝しました。

８時すぎ無事宮島口に到着し解散しました。今回も末原さんと舛田さんに大変お世話になり、運転して下さった尾川さん、楽しく旅を終えることができ、有難うございました。

（　野呂田 恵子　）

速報　筑波大学同窓会 茗渓会顕彰受賞

この度、当会はこれまでの活動が評価され、第 11 回（平成 24 年度）茗渓会顕彰を受賞しました。

この顕彰制度は、地域社会で地道ながらも人々の心に灯をともす社会貢献活動をしている青少年や一般社会人を顕彰するという、筑波大学同窓会茗渓会の公益事業の一環で、今年度は全国から７団体と４個人が顕彰されました。

11 月 26 日に東京茗渓会館で顕彰式と祝賀会が行われ、当会を代表して村上会長が出席し、あらためて当会のこれまでの活動状況とこれからの抱負を紹介しました。

【 取材者来訪 】

次の３団体が当会へ取材に来られました。

1．広島県立五日市高等学校　放送部
日　時：8 月 26 日（日）9：30～10：30
目　的：第 23 回広島県高等学校放送文化コンクール（11 月 18 日）へ出品するビデオ番組、「宮島で生きている（仮題）」制作のインタビュー取材。

2．広島ホームテレビ
日　時：9 月 5 日（水）9：00～14：00
取　材：当会の活動全体について紹介し、活動具体例として、「みせん」48・49 号掲載の屋外活動写真を提供。現地取材として、宮島新町の陸軍標、包ケ浦までの軍用道路、防空壕跡、包が浦弾薬庫、鷹ノ巣高砲台跡（砲座、伝声管、艦船監視所等）一帯を案内。
放　送：9 月 6 日（木）18：45 から約 5 分間。一般にはあまり知られていない宮島の軍事遺跡（建造物）の紹介を軸に、明治の技術者や職人達の「匠の技」を紹介。

3．広島 FM 放送
放送：10 月 6 日（土）13：55～14：00
番組名：エコ　アクション　ワールド
第 113 回“神の島”宮島の手つかずの自然！
内　容：世界遺産に登録されている“嚴島神社”のほか、特別天然記念物に指定されている“弥山原始林”や絶滅危惧種のミヤジマトンボが生息する海岸湿地の紹介。Web アドレス　http://www.tfm.co.jp/ecoaction/ を見てください。

上記の 3 件は村上会長が対応しました。

廿日市環境フェスタに出展

日　時　　10 月 14 日（日）10:00~14:00
会　場　　廿日市スポーツセンター

廿日市市では「環境保全」をテーマとした「はつかいち環境フェスタ 2012」を初めて開催し、当会にも出展要請がありました。

毎年 3 月に開催される「市民センター祭り」に展示している PV 活動状況に加えて宮島の植物、新宮島八景など展示しました。

◇ 編 集 後 記 ◇

▼創刊以来 12 年、50 号発行となり、よく続いたものだと感無量です。今号で編集統括をバトンタッチします。最後の編集後記を書いていて、いささか感傷的になるかと思っているとサンフレが初優勝の快挙をなしとげ気分爽快となりました。会員の皆さん長い間のご支援有難うございました。（　足立　清　）

「みせん」次 51 号発行予定

発行日　　平成 25 年　3 月　1 日
投稿原稿　常時受け付けています
皆さんの投稿をお待ちしています

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会
事務局　環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
（〒730-0012）
広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455
宮島詰所
(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18
（宮島桟橋 2 F）